

ART保険適用後のOHSS対策に対する評価～GnRH antagonistの有用性～

日本生殖医学会 2023.11

不妊治療をされている方は、卵巢過剰刺激症候群（OHSS）について、よくご存知かと思いますが、OHSSは時には重篤な状態を引き起こす可能性のある、注意すべき合併症のひとつです。

ARTの場合、より多くの卵子が採れたほうが、その後の治療や、2人目、3人目を考えたときに有利に働くことは間違いありません。しかし、OHSSは頻度は稀ですが、入院や手術が必要となったり、血栓症（脳梗塞や肺梗塞、腎不全など）などの生命に危険を及ぼす状態を起こしたりすることのある合併症です。

ARTにおいては、より多くの卵子を獲得することを目的としながらも、OHSSに注意しながら治療を進めていくことが重要です。

当院では、OHSSの重症化予防および軽減を目的として、

ART保険適用前の2022年3月までは、カバサール（カベルゴリン）にレルミナ（レルゴリクス GnRH antagonist）を併用した方が、OHSS軽減効果が高いことを報告してきました。

保険適用後の2022年4月以降はカバサールのみ使用、またはカバサールにフェマーラ（レトロゾール）を併用しています。

*レルミナは今回保険適用とならなかったため、保険でのARTでは使用できない状態です。

今回、保険適用前と後で使用薬剤の変更に伴い、そのOHSS対策効果について検討した結果、フェマーラ併用において重症OHSSの発症は認めませんでした。フェマーラには卵巢腫大を抑える効果はないため、腹部が張った感じなどの症状の発現は多く、また採卵後の月経開始までの日数短縮効果は認めませんでした。

*採卵後に月経が開始するとOHSSは改善してきています。したがって、月経が早く来るということはOHSSの改善が早いということなのです。

レルミナを併用した方が、卵巣腫大も有意に改善し、月経開始までの日数も有意に短縮したことより、よりOHSS改善効果を高めるには、レルミナ併用が有用であると考えられました。

	カバサール + フェマール投与	カバサール + レルミナ投与
採卵7日後の卵巣サイズ (mm)	45.2 (35-75.5)	38.5 (26-73.5)
採卵～ 月経開始までの日数 (日)	12 (4-15)	4 (2-44)

現在、レルミナはまだ保険での使用は認められておりませんが、今年より適応外使用として、同じGnRH antagonistであるセトロタイド、ガニレストの使用は認められており、当院でも使用しています。

ただし、セトロタイドもガニレストも注射薬であるため、内服薬であるレルミナを使用できた方が、患者さんの負担は少なくなります。

ART治療においては、多くの卵子を得ることも大事ですが、合併症であるOHSSをなるべく抑えることも大変重要です。

今後、保険で使用できる薬剤も変わってきて、より良いARTを提供できるようになってほしいと思います。

院長 園田桃代